

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これまでの歩みの中で培われた「柏原東高校の教育力」と「柏原地域連携型中高一貫教育」を中心とした「地域連携による教育力」の相互補完・活性化による教育活動を展開することで、地域や社会に貢献できる人材を育成し、生徒・保護者・地域から愛され、信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、自立できる生徒を育成する学校
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じて、豊かな人間性を育む学校
- 3 地域とともに歩み、地域に愛される学校

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) さらなる授業の質の向上を図り、「わかる授業」を展開する。

ア 習熟度別・少人数展開授業の実施により、生徒の学力実態に応じた「わかる授業」を推進する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらにICTを活用した授業改善についても研究を進める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業理解度（平成27年度49%）を毎年2%以上引き上げ、平成30年度には55%以上をめざす。

(2) 多様な進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。

ア 「B-up タイム」(Brush up タイム)において、全生徒に対し「基礎知識の学び直し」を実践することで、「学習の姿勢づくり」及び就職試験において必要とされる「基礎学力の習得」を図る。

※年度末の学校幹旋による就職内定率毎年100%をめざす。(平成27年度100%)

※就職希望者の就職試験1次内定率76%(平成27年度74.1%)以上とする

イ 個々の目標や能力に応じた進学講習体制を構築し、生徒の進路実現に取り組む。

※学年毎・教科別に実態に即した講習カリキュラムを作成し、組織的・体系的な講習を実施することにより、希望に応じた大学等への合格をめざす。

ウ 放課後・土曜日を活用した「特別進学コース」を開設し、3年間で4年分の学習量を確保することにより、さらに高いレベルの大学進学をめざす生徒を育てる。また、「特別進学コース」の授業をカリキュラム内に位置づけ、さらなる学力アップを図る。

※平成25年度からの継続で地元大阪教育大学や難関私立大学をめざす生徒を育て、平成28年度以降も継続して合格をめざす。

2 豊かな人間性を持つ生徒の育成

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を構築する。

ア 「熱く、厳しく、温かく」をモットーに教職員全体制で取り組んできた「厳しく寄り添う」生徒指導を継続し、次世代へ継承していく。また、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導が行うことができるよう、教育相談体制を整備する。

※年間遅刻者総数1,000人以下(平成27年度977人)を維持し、平成30年度には800人以下にする。

※生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目における肯定率(平成27年度42%)を平成30年度50%にする。

※生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度(平成27年度46%)を毎年2%以上引き上げ、平成30年度には50%以上にする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目における肯定率(平成27年度50%)を毎年2%以上引き上げ、平成30年度には55%以上にする。

※部活動加入率を毎年引き上げ、平成30年度には50%以上をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事の満足度(平成27年度62%)を毎年2%以上引き上げる。

イ 保健体育科の「少人数展開授業」の実施により、安全配慮や協調性・責任感などを醸成するとともに、その集大成ともいえる体育祭での集団演技・発表を通じて達成感を味わい人間的な成長を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における人間成長度(平成27年度71%)を平成30年度には75%以上にする。

(3) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育、人権教育の充実を図るとともに国際理解教育を推進する。

ア 「総合的な学習の時間」と「LHR」等を連携させ、3年間を見通したキャリア教育の指導計画を確立させる。また、地域や外部人材等を積極的に活用し、地域のニーズも取り入れながら、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。

※年度末の学校幹旋による就職内定率を、毎年100%をめざす(平成27年度100%)。

イ 「総合的な学習の時間」と「LHR」等を連携させ、3年間を見通した人権教育の指導計画を確立させる。また、人権教育委員会及び教育相談委員会の活性化を図り、個々の生徒情報について学年・人権教育委員会・教育相談委員会で共有できる体制を構築する。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育の肯定率(平成27年度63%)を毎年3%以上引き上げる。

ウ 国際理解教育を推進するため、生徒の海外研修・留学および海外留学生の受け入れなどを検討する会議を設置し、実現のための情報収集・協議を行う。

※H28年度中に本校の国際交流教育の骨子を策定し、H30年度の実現をめざす。

3 地域連携の確立と伸張

(1) 柏原地域連携型中高一貫教育体制の確立とさらなる進展を図る。

ア 連携授業(書写・書道)の定着を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。

※中学校生徒向け連携授業アンケートにおける楽しいの項目(平成27年度92.6%)、わかりやすいの項目(平成27年度91.9%)を毎年1%以上引き上げ、平成30年度にはそれぞれ95%以上をめざす。

(2) 地元大学(大阪教育大学)との高大連携による教育力の向上を図るとともに外部への情報発信力を強化する。

ア 大学生や生徒間の交流の機会を拡大し、互いの資源を有効活用することにより相互メリットのある連携を構築する。

※「特別進学コース」と連携・協働し、国公立大学進学をめざす生徒を育成し、近い将来には合格者を輩出する。

イ HPや学校説明会・学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>*アンケート回収率について 平成 27 年度 (生徒 100% : 保護者 83%) → 平成 28 年度 (生徒 100% : 保護者 91%) 保護者の回収率上昇により信頼性高まった。(8 ポイントアップ)。 <以下の数値 (%) は肯定的回答の割合 ○…上昇又は維持、△…減少> ①学校への満足度 <生徒>58%→59%○ <保護者>87%→86%△ 厳しくも寄り添う本校の教育方針について理解と信頼が定着してきている。一方で生徒はもっと成長しなければ高い向上心を持っている。 ※人間的成長度…<生徒>71%→65%△ <保護者>81%→83%○ ②授業力 <生徒>49%→46%△ <保護者>56%→53%△ 講義型授業から参加型授業への授業改善を進めているが、校内研修等を活用し授業力向上への努力も続けていく必要がある。 ③学校行事の充実度 <生徒>62%→64%○ <保護者>75%→78%○ 肯定的評価の生徒が近年 6 割を超え、定着してきた。保護者も同じ傾向である。これを生徒の自尊感情醸成にもつなげる必要があると考える。 ※頑張っている…<生徒>78%→73%△ <保護者>92%→90%△ ④人権教育や安全確保 <生徒>63%→63%○ <保護者>77%→81%○ 毎日の早朝登校指導 (遅刻指導) から始まり日々の生徒指導について、生徒たちにも理解できるよう粘り強く指導している。ここ数年は、社会の情勢から「SNS を通した生徒の人権意識向上」を強調した指導を取り入れている。 ⑤情報提供 <保護者>67%→73%○ ホームページ、校長ブログやメールマガジによる情報発信の成果が反映されている。来年度メールマガジンが改善されるので、発信力をさらに強化させていく。 ⑥教職員の結果 今年度肯定的評価が 70%未満となった項目は「進路、興味に合った教育課程」「学校施設設備の安全性」「教育相談体制」「クラブ活動の活性化」「人権学習」の 5 項目である。 ・来年度より教務部中心に教育課程の見直しを進める。 ・施設・設備の再点検をし、必要な処置をしなければならない。 ・今年度教育相談体制の見直しと充実を図り、来年度より本格的に稼働する。 ・クラブ活動の活性化に向けた取り組みを工夫する必要がある。 ・人権教育委員会を中心に内容の見直しを進める。</p>	<p>第 1 回 平成 28 年 6 月 17 日 (金) 15 : 00 ~ 16 : 40 ・大教大フィールドワークは大学生にとってとても有益な時間を過ごせた。 ・兄弟姉妹で柏原東に入学させる家庭が多いのは、この学校がすごく良い、信頼できる学校だからだと思う。先生方が生徒と触れ合う時間を増やせるようにして欲しい。教室設置プロジェクターなど環境整備について協力できるのであれば応援したい。 ・体育祭での集団演技等は充実感・達成感があり、成長する機会となっている。 第 2 回 平成 28 年 11 月 24 日 (木) 13 : 00 ~ 15 : 10 ・書道展は昨年も見学した。留学生との交流会は、地域連携という中に大教大との連携も含めてもらい今後さらに濃密に進めばと思う。若手研修についても以前から取り組んでおり、素晴らしい。今後も本日のように授業見学を組込んでほしい。 ・初任者の先生の話の聞き、色々な場面で育っていると感じる。中学校ではこういう研修をする時間がなかなか作れない。授業評価について、2 年前にかなり伸びているが、急激に伸びた理由があれば教えてほしい。 ・柏原東に入学した子どもは大きく成長するということをもっと前に出したらよい。うちの子どもも生徒会長をし、中学校の時とずいぶん変わった。40 周年のビデオを見れば、あのおとなしかった子がこんなふう成長したと分かり、中学校も安心して柏原東に送るのではないと思う。 ・自分の子どもは遠いところから通学している。子どもは成績も精神的にもすごく成長した。たぶん柏原東高校に入学させて後悔する親はいないと思う。また強くなれるとも思うので、いろんなところから入学してほしい。 ・中学校でできなかったことを柏原東で全部教えてもらうことができ、すごく楽しい学校だということ子ども自身が認識できているように思う。 第 3 回 平成 29 年 2 月 10 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00 ・中高連携の企画の 1 つとして、リビエールホールでの書道展は価値ある取り組みである。今後はこの取組を発展させて、美術や音楽の発表を同時にやってはどうか。また、ブラスバンド部による演奏会を中高合同でやるのもよいのではないか。 ・学校教育自己診断アンケートにおける保護者の回収率が 90% というのはすばらしい。学校をよくしていくには保護者の協力が大切。 ・柏原東高校の 1 年間にわたる様々取組を報告してもらうとともに、初任を含め若い多くの先生方の声を聞かせてもらうことができた。有意義な学校協議会になった。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業」をめざした授業改善への取組み ア 習熟度別・少人数展開授業の定着 イ 教育ツールの活用による授業の質の向上 ウ 公開授業・授業見学、授業アンケートを活用した授業改善の推進 (2) さらなる学力向上への取組み エ B-up タイムの実施による基礎力向上の推進 オ 特別進学コース及び進学講習の継続実施により、高いレベルの進学をめざす生徒の育成</p>	<p>ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、第 1 学年における「数学」・「英語」の習熟度別・少人数展開授業の定着を図る。 イ・ICT 機器を活用した授業を展開することにより、生徒の興味・関心を引きだし、わかる授業を実践する。 ・一部講義室にプロジェクター等を常設し、ICT 機器を活用した授業を展開できるようにする。 ウ・授業公開週間を定め(9~11 月)、テーマを設定し、8 人 1 グループの教員チームによる相互見学・評価を実施する。 ・生徒による授業アンケート(年 2 回)結果を基に課題把握と分析を実施し、授業改善を進める。 エ・全学年全生徒に対し、週 2 回(月・木曜日/6 限目 15 分)、英・数・国(3 年:一般教養)の 3 教科を実施する。基礎力診断テストによる分析を学習指導に反映させる。 オ・特別進学コースの生徒に対し、2・3 年/週 4 回(月・火・水・金)7 限・8 限、1 年/週 3 回(火・水・金)、7 限目の特別授業(60 分)および土曜・長期休業中特別授業(1 コマ 80 分)を実施する。 ・高い進学意欲を持った生徒に対し、進学講習(希望教科)を実施する ・特別進学コースの生徒や高い進学意欲を持った生徒のさらなる学力向上を図るためのカリキュラム編成を検討する。</p>	<p>ア・生徒による習熟度別授業アンケート、両教科の授業進度・難易度の肯定率、数学 68%(平成 27 年度 66%)、英語 83%(平成 27 年度 81%) イ・生徒向け学校教育自己診断結果における授業理解度 51%(平成 27 年度 49%) ・生徒の授業アンケートの「授業に興味・関心をもつことができたと感じている」の項目の向上 (H27 年度 前期 65.3% 後期 66.3%) ウ・生徒向け学校教育自己診断における授業理解度 51%(平成 27 年度 49%) ・生徒の授業アンケートの「授業に興味・関心をもつことができたと感じている」の項目の向上 エ・基礎力診断テスト(外部)による到達度チェックを実施し、分析会を 2 回実施 ・就職希望者の就職試験 1 次内定率 76%(平成 27 年度 74.1%) 以上 オ・実力診断テスト(外部)による到達度チェックを実施し、分析会を 2 回実施 ・大学一般入試受験者の増加</p>	<p>ア・習熟度別授業アンケート授業進度・難易度肯定率、 数学 73%(○) 英語 75%(△) イ・生徒向け学校教育自己診断授業理解度 46%(△) アクティブラーニングを取り入れ、参加型授業へ改善を進めている。また、ICT 機器の拡充も進めたい。 ・授業アンケート「興味・関心」前期 69.5% 後期 68.4%(◎) ウ・授業アンケート結果の 100 点法への換算、肯定的評価割合の算出によって個人、教科での分析を容易にすることができた。分析をもとに、個人、教科で課題の発見、改善方策の検討を行い、シート作成、提出を義務付けた。これが授業改善につながった。(◎) エ・基礎力診断テスト(外部)分析会 2 回実施(◎) テストの結果(2 年)は(◎) GTZ 上昇者 2 年 3 教科 113 人 A・B ゾーン数 A2 人、B4 人 ・就職 1 次内定率 77.6%(◎) オ・大学一般入試受験者数 H27 16 人→H28 11 人 (△)</p>

<p>2 豊かな人間性を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 「厳しく寄り添う」生徒指導の実践 ア 支援体制の構築と規範意識の醸成 (2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上 イ 部活動の活性化に向けた取り組みの推進 (3) 総合的なキャリア教育・人権教育の充実および国際理解教育推進への取り組み ウ 3年間を見通したキャリア教育指導計画・人権教育指導計画の確立と実践 エ 国際理解教育推進のための組織の整備</p>	<p>ア・今までの生徒指導方針を継承しながらも、生徒実態に即した対応が図れる生徒指導を実践していく。 ・高校生活支援カードおよび府のSC事業を活用し、個々の生徒を支援できる教育相談体制をより充実させる。 ・全教員による登下校指導を継続実施し、生徒の安全確保、遅刻者数の更なる減少に努める。 ・外部関係機関等と生徒指導における連携を密にする。 イ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図る。(春・秋の2回実施) ・中高連携を活用した部活動交流を推進する。(技術指導・合同練習)また、柏東杯等の大会を開催することにより、本校をめざす生徒を増加させる。 ウ・進路指導計画に基づいた体系的なキャリア教育の実施により、自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。また、キャリア教育の実施状況を適宜保護者に周知する。 ・政治的教養を育む教育をキャリア教育の中に位置付け、自らの将来を設計できる力を醸成する。 ・人権教育指導計画やいじめ防止基本方針等に基づき策定した人権教育計画(柏東人権マップ)を推進する。 エ・国際交流検討会議を立ち上げ、生徒の意識調査を行い、実態に即した国際交流の制度を検討する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導の肯定率44%(平成27年度42%) ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度50%(平成27年度46%) ・年間遅刻者総数1000人(平成27年977人)以下を堅持する イ・生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目における肯定率55%(平成27年度50%) ・部活動加入率43%(平成27年度41%) ウ・年度末の就職内定率、毎年100%(平成27年度100%) ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導の肯定率65%(平成27年度63%)、保護者の進路指導の肯定率73%(平成27年度71%)以上とする ・生徒向け学校教育自己診断における人権教育の肯定率65%(平成27年度63%) エ・情報収集を行い、年度内に国際理解教育についての骨子を策定する</p>	<p>ア・生徒指導の肯定率40%(△) ・教育相談の満足度48%(△) 支援教育委員会を立ち上げ、教育相談と支援教育という両輪体制が整備できた。 ・年間遅刻者総数1341人(△) 昨年度同様に厳しい指導を継続している。特別な事情を抱える生徒が増加した。 イ・部活動の肯定率47%(△) ・部活動加入率37%(△) 年度途中にも加入キャンペーンをするなど生徒会中心に意欲的に取り組んだ。家庭事情によるアルバイトとの関係も大きい。 ウ・就職内定率5年連続100%(◎) 3年間を見据えたキャリア教育の成果である。 ・進路指導の肯定率生徒62%(△) 保護者71%(△) 特に進学指導体制の強化必要 ・人権教育の肯定率63%(△) ・政治的教養を育む教育として、新たに候補者の演説から投票までを取り入れた模擬選挙を行うなど、ユニークな取り組みを行った。(◎) 人権教育委員会、学年会、相談委員会、生徒指導、保健指導部などあらゆる角度から人権教育をすすめている。また、いじめについても、生徒の状況を日常的に把握、情報共有するなど、その防止に取り組み、いじめ対策委員会、人権教育委員会の定期開催によっていじめ事象を発生させない体制が確立している。(◎) エ・大阪教育大学との国際交流会を実施、その後も継続している。(◎)</p>
<p>3 地域連携の確立と伸張</p>	<p>(1) 連携型中高一貫教育体制の確立と進展 ア 連携授業の定着と進展 イ 部活動や体験講座を通じた生徒交流の拡充 ウ 中高教員による交流事業の構築 (2) 地元大学(大阪教育大)との連携づくりを進めるとともに外部への情報発信力を強化する エ 学生・生徒の交流の機会を拡げる オ 中学校訪問、学校説明会の更なる充実と改善を図る</p>	<p>・書写・書道の連携授業の定着・充実を進める。柏原市内7中学校第1学年全クラス年間5回の連携授業を実施するとともに中高連携書写・書道展を継続開催する。 イ・2学期に柏原市立中学生を対象に体験講座を実施するとともに部活動交流を進め、柏東杯等を開催する。 ・教育活動に柏原市立中学生を招き、様々な面での生徒交流を拡充する。 ウ・中高教員による教科指導研究会等を開催し、中学高校の連携を密にし、互いに生徒実態に即した授業を実践する。 エ・大教大教養科学生の学校見学及び教育実習生の受け入れ、「特進コース」への授業補助学生や大学での模擬授業など通じ、交流を拡大する。 オ・中学訪問、学校説明会にかかるマーケティングチームを編成、現状など状況分析の上、本校のアドミッションポリシーが中学生、保護者に明確に伝わるよう積極的・効果的な情報発信の強化に努める。 ・学校説明会の開催時期を中学生の希望実態に合わせることで情報発信を適切に行う。 ・活発な学校HPの情報更新および「柏東メールマガジン」による効果的な情報発信に努める。</p>	<p>ア・連携授業アンケート(書写・書道:中学生対象)による楽しいの項目94%(平成27年度92.6%)わかりやすいの項目93%(平成27年度91.9%) イ・体験講座における参加中学生の満足度98%(平成27年度97%) ・部活動交流、年1回以上 ・柏東杯1クラブ以上開催 ウ・1教科以上の開催をめざす エ・教養科学生、教職大学院生等の受け入れで大学生をキャリアデザインとして身近に感じることで、大学進学希望者の増加につなげる オ・学校説明会年3回・参加者300人以上(平成27年度3回254人) ・平成29年度入学者選抜における志願倍率1.0倍以上とする(平成28年度0.86) ・保護者向け学校教育自己診断による学校の情報発信に対する肯定率70%以上(平成27年度67%)をめざす</p>	<p>ア・連携授業アンケート 楽しい 96% (○) わかりやすい 96% (○) イ・体験 満足度 100%(◎) ・部活動交流 複数回(◎) ・柏東杯 バドミントン3月開催予定 ウ・歯磨き教室に市内中学校養護教諭参加、「美しい板書文字講座」(2回)に市内中学校教員参加(◎) エ・4年制大学進学希望者28人→27人(4月調査)(△) 大教大院生が学習支援員としてサポートしている。 オ・学校説明会3回実施 参加者303人(◎) ・平成29年度選抜における志願倍率連携1.07倍(H28 0.92倍)(◎) 一般0.84倍(H28 0.82倍)(△) ・情報発信肯定率(保護者)73%(◎) ホームページの刷新、更新および校長ブログ、メルマガによる情報発信の成果である。</p>